

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】 令和 6 年 6 月 21 日

評価対象事業		評価者	環境センター担当課長 月花 信介	
環境-22	今泉クリーンセンター管理運営事業	☒ 自治事務	主管課	環境センター
		☐ 法定受託事務	関連課	ごみ減量対策課、環境施設課
総合計画上の位置付け	分野	3-(3) 生活環境	施策の方針	3-(3)-①3Rの推進・ごみの適正処理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	一般廃棄物の適正な処理のため。
効果	生活環境の保全及び公衆衛生の安定が図られる。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

・今泉クリーンセンターの光熱水費、維持修繕料等の管理運営に係る事務を行った。
・市民、事業者から排出されるごみを適正に処理するための粗大ごみ処理施設、中継施設等の運転及び維持管理を行った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度		令和6年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	今泉クリーンセンター維持管理事業	光熱水費、施設維持等消耗品費等	-	- / -	-	-	
				43,881 / 57,073		49,518	
02	今泉クリーンセンター維持修繕事業	維持修繕	計画停止を除く施設停止の日数をゼロにする(%)	100 / 100	100	100	100%
				25,225 / 27,001		51,421	
03	粗大ごみ施設、中継施設運転事業	粗大ごみ等処理業務委託料、搬出施設運転委託料	予定中継量以下の日数(%)	100 / 100	100	100	100%
				61,470 / 61,470		84,991	
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	13,170 / 13,851		13,682	
			一般財源	117,406 / 131,693		172,248	
		事業費の合計(千円)		130,576 / 145,544		185,930	
		人件費(千円)			75,928	70,951	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	3.0	6.2	6.4	8.1	7.0	
会計年度任用職員	4.0	7.0	7.0	10.0	10.0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	今泉クリーンセンター維持管理事業	施設を適正に運営するための維持管理であり、指標の設定は困難である。	ごみの適正な処理のためには、施設の適正な維持管理は必要な事業である。	さらなる臭気・騒音対策や施設のイメージアップを考慮した維持管理の実施
02	今泉クリーンセンター維持修繕事業	適正な維持修繕を行うことにより、計画通り施設の運営を実施し、目標を達成した。	ごみの適正な処理のためには、施設の適正な維持修繕は必要な事業である。	中継施設の稼働期間を考慮した維持修繕の実施
03	粗大ごみ施設、中継施設運転事業	周辺への影響をあたえないように、予定通りごみを中継し、適正な施設運営を行い目標を達成した。	ごみの適正な処理のためには、施設の適正な運転は必要な事業である。	適正なごみ搬入量を維持するための名越クリーンセンターとの焼却量、自区外の資源化量、中継量の調整

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	4 法令等により、市に実施が義務付けられている
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	2 目的達成のために手段(最小事業)を改善する余地がある
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-2 適正な受益者負担を導入している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2 市民等と協働して実施する事業はない
		協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】 ☐ 拡充 ☒ 改善・変更 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止

粗大ごみ処理施設、中継施設等として適正に運営するための必要な維持管理を行う。
 名越クリーンセンター稼働停止後、跡地に中継施設を整備した後は、今泉クリーンセンターは中継施設機能を終了し、生ごみ資源化施設を整備する計画としている。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

指標(単位)							単位	
指標設定理由		年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		目標値						
		実績値						
		達成率						

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項							
団体名	鎌倉市						
他市実績							

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	本市と同様の仕様、条件下で運用している施設があまりないため比較が困難である。
--------------------------	--